



CONTENTS

「おかげさまの再出発」.....	01
ネスト・プログラム.....	02
「HIV陽性者参加支援スカラシップ」報告会.....	04
部門報告(2016年1～3月).....	05
ぷれいす東京 2015年度活動報告会のご案内.....	08
認定NPO計画 目標を達成!.....	08

「おかげさまの再出発」

長谷川 博史

自分のHIV感染を知ったのが今から24年前、39歳の時だった。その後、3つのゲイ雑誌の創刊プロデュースと編集長を務め、10年経ったところで編集の仕事から足を洗い、HIV陽性者ネットワークJaNP+を立ち上げた。その代表の座も後継に譲り、少し都心から離れた場所に居を移そうとした時に思いもよらぬ問題に直面した。

僕はHIV感染が判った翌々年に糖尿病が悪化していることが判り、それ以来、十数年間治療を続けて来た。その末に、腎臓はまったく機能不全に陥り、1回4時間の透析治療を週3回受けることになっていた。しかし、転居先から通院可能なエリアにHIV陽性である僕の透析治療を引き受けてくれるクリニックが見つからなかった。40軒の透析クリニックから立て続けに断られた。精神的なタフさには自信があった僕もさすがに疲れ果て、そのうちに鬱を発症して身動きが取れなくなっていた。正直、当時の僕は生きる気力も意欲もすっかり無くしていた。とうとう抗HIV薬を勝手に中断し、しまいには透析も1週間ポイコットする始末。

当然、身体的にも大きな変化が起こる。まずそれに気づいたのが主治医と親しい七人の若い友人達だった。僕自身が鬱だと気づく前に彼等が僕の異変に気づき、僕の救出に動いてくれた。そんな友人達の心配や努力にも関わらず、相変らず生きる気力を持てなかった僕は、とうとう昨年3月自宅で倒れている所を救急搬送された。結果、一命は取り留めたものの、かねてから悪くしていた右足を切除することに。

すると今度は退院から社会復帰の計画を立てる必要が生まれて来た。そのためにはまず、片足の生活に慣れるためのリハビリが必要で、さらに退院後の透析も考えなければならぬ。そこで病院のソーシャルワーカーのAさんが透析とリハビリの両方が可能な現在の病院を探してくれた。そして、その病院のソーシャルワーカーに僕のその後が託された。この二人の絶妙な連携が無ければ、僕は再び受け入れ先と住まい探しをゼロからやり直すことにもなりかね

なかった。そしてその時は福祉関連の手続きもすべてやり直すことになる。

リハビリ入院を終える5ヶ月間にその医師やソーシャルワーカーをはじめとする関係者の話し合いがもたれた。そこには新宿区の福祉担当者や僕を救い出してくれた友人たちの代表者も参加した。またこの一連の作業についてはぷれいす東京の生島さんに相談し、問題を共有していただいた。

ここまでは一見、順調かに見えた。しかし、新居探しでつまずいた。退院後も中野区のこの病院で透析治療と送迎サービスを受けるにはその範囲内に住む必要がある。そしてこれまで進めて来た一連の福祉関係の手続きを無駄にしないためには現在の居住区を移動することは出来ない。しかも「高齢×単身×障がい者」と言う三重苦。住まい探しに関してこれほどの悪条件はそうそう無い。

そこで活躍してくれたのがぷれいす東京で紹介していた協賛不動産業者のKさん。こんな悪条件の中で予算内の物件を探して来てくれた。その途中では借り主である僕の状況を伝えて貸し主側の不動産業者から断られたことが何度もあったようだ。そして現在の僕は週3回、病院の送迎車に乗せられて区境を越えて超えて透析に通っている。福祉に関しては要介護2の認定を受け週3回ヘルパーさんの訪問で片足では困難な家事や、転倒の危険性の高い入浴の見守り介助を受けている。おかげさまで、ほんとうにみんなの「おかげさま」で生き延びている毎日だ。

医療機関や行政の公的なサービス、つまり「公助」は最大限利用させてもらうことにした。そして友人達とコミュニティの支援組織であるぷれいす東京の力強いサポートは、ありがたいことに「おたがいさま」と言ってくれる。つまりこれは「互助」。最後に必要となるのは「自助」。行く先は不明瞭ながら、僕は想定外の老後に向かって歩み始めた。ほんとうにみんなの「おかげさま」で。

ネスト・プログラム

さまざまなネスト・プログラムの中から、3月16日に行われた第7回ピア+トーク「HIV陽性者とキャリアチェンジ」、1月30日、31日に行われた第7期「アサーティブ・コミュニケーション」の感想文をお届けします。

第7回 ピア+トーク 「HIV陽性者とキャリアチェンジ」

第7回 ピア+トークが、3月16日に新宿区内で開催。HIV陽性とわかった後にポジティブに自分の働き方を変えた5人のHIV陽性者に、スピーカーとして経験をお話しいただきました。参加者は33名(スピーカー含む)でした。

[5人のスピーカーたち]

- ①バリバリの代理店勤務から、障害者枠で新たな働き方に変えた女性。
- ②ITが得意ではなかったけれども、ITラーニングをきっかけに働き方を変えた男性。
- ③サラリーマン(営業職)から介護職へ、さらに展望を模索している男性。
- ④病気をきっかけに、看護師の資格を取り、働き方を変えた男性。
- ⑤発症から15年のブランクを経て、介護ミーティングに触発され資格を取得。老人施設に就職した男性。

参加者より▶▶▶

「十人十色なキャリアチェンジ」 ヒロト

(感染告知：2015年/服薬歴：3ヶ月目/初参加/30代中盤)

現在、HIV陽性と分かって初めて転職活動をしています。過去にも転職活動をしていましたが、これまでの経験を活かす事がメインでしたが、病気の事を抱えた状態で、どう転職活動をしていけば良いのか、分からない事や不安ばかり…。これまでの職種以外も視野に入れないと難しいのかな?と思い、参加させて頂きました。

5人のスピーカーの方々の経験を聴き、驚きの連続でした。病気が転機となって目標を叶えた方、異業種になった後の本音、周りの反応や配慮がそれぞれ異なる事。キャリアチェンジの方法はもちろん、年齢による違い、新旧の職場環境の良かった点など、本当に「十人十色」で「これが正解」という事は無いんだなと感じました。

でも、どのスピーカーの方々も生き生きとして、とても前向きだった事、更にこれから先の目標も立てている方もいて、凄い…参ったという気持ちでいっぱいです。迷いや不安がたくさんありましたが、今回の参加を機に、まずは自分自身が病気の事を受け入れ、仕事と身体のバランスを考えながら、「病気だからやりたい仕事を諦める」という事は考えず、スピーカーの方々の笑顔を思い出しながら、キャリアチェンジを頑張っていこうと思いました。

「意外にも。」 あき(40代)

人生も折り返しを迎えようとしている年齢にさしかかり、今後の働き方に漠然とした不安があったので、参加してみようと思いました。何か新しい方向性が見つかるかも知れないと思って…

スピーカーの方々は皆さんフランクにご自身の体験を話

して下さいました。私が興味のある分野で働いている方からは、ご自身の業務の内容や資格の事など具体的な話を伺えて、1人で調べていても知らずに終わっただろうと思う事も沢山知る事が出来ました。また、自らカミングアウトした方、せざるを得ない状況になってしまっていて思いきってカミングアウトした方のお話も、衝撃や感動を持って聞き入ってしまいました。まだまだ難しいですけど、理解して応援してくれる仲間、学ぼうとしてくれる同僚。ホロッときました。

「自分で決めた事に後悔ないようにしよう」「自分が通用するように今頑張っているところ」というお話の時には思わず頷きながらメモってしまいました。

話を聞き終わって改めて考えたら、結局私の不安はルーチンで仕事していた私自身の気持ちにあったのだと気がつきました。体調も安定していて職もある中、先ずすべきは先の事より今。今できる事を、もう一度初心に戻って見つめ直そうと思いました。最初は職を変える事について考えていたのに、意外な終わり方でした。参加してよかったです！貴重な時間をどうもありがとうございました。

「仕事について」 山田クマ(男/初参加/50代/ホモセクシャル)

第7回ピア+トーク「HIV陽性者とキャリアチェンジ」に参加しました。私自身は2004年に感染告知を受け、その3カ月後に異動の内示があったことから、会社には病気をことを開示しました。もう少し時間的余裕があり、メンタル面でのリカバリーもできていたら、絶対に開示はしなかったです。

以後、仕事は現業部門で昇級なし、定時で帰り、年休も完全消化していました。しかし、仕事は単純なルーチンワークで、時間も無意味に過ぎました。思うのですが、ワークバランスが自分の都合通りなるわけがないと言う事です。忙しいか、ヒマを持って余すかどちらか。もちろん最近ではヒマにしている訳にはいきませんが、人生の少なくとも3分の1は仕事をしているので、やっぱり自分が気持ちよくできる仕事に就くべきだと、最近思うようになりました。

今回の座談会ではエージェントを介してキャリアアップした経験談や、後悔していると言いながらも、生き生きとしたスピーカーを見て、勇気もらいました。また、新たに資格を取得して異なった業種に就職した事例や、仕事の中で教育を受け、業務の習得を行った話、一定期間の休養を経て、手に職をつけた話を聴くにつれ、私が思った感想は「念ずれば通じる」、「思いはかなう」と言う事でした。現実面では自分の置かれた状況や個人の資質、意思を貫く精神力など実現は簡単ではないと思いますが、スピーカーの皆さんには強い意志を感じました。

私自身ですが、転職ではなく社内異動でやってみました。社内でポイラー運転員の募集があり、希望して現在北海道に住んでいます。交代勤務で生活が不規則なのですが、平日休みが結構いいです。収入も少しながら増えましたし、

精神的なストレスも軽減されました。結果を評価するとしたら微妙ですが…今までの仕事を継続していても閉塞感にさいなまれ、会社からは退職勧奨が出ていたと思います。

最後に、今の生活において情報、サービス面で東京と地方の格差を感じます。こればかりは、どうしようもないですね。これからも悩みはつきませんが、今後の人生を有効に活用したいと思います。

「リアルな情報が得られました！」 SKY

(30代男性/服薬歴4年目)

キャリアチェンジについては、自分はまず幅広く情報収集をしたいと考え、以前は就職支援セミナーを受講し企業側のお話を拝聴しましたが、今回は当事者の方のお考えやご経験等もお聞きしてみたいと思い、初めて参加させていただきました。

スピーカーの皆様の年代、病歴、経歴等は様々であり、特にキャリアチェンジをされた動機は、感染や病気を発症したことによりライフワークバランスを見直されたことが多かったですが、中には病気は全く関係ないという方もいて、とても興味深かったです。

また、具体的に転職されたお話の中で、「これまでのキャリアを生かして異業種の一般企業へ転職」された内容が自分の描いているイメージと近く、なぜ障がい者雇用を選択されたのかなど大変参考になりました。実は、僕はこれまで陽性者の方と積極的に関わることに気負ってしまい、あえてミーティングには一度も参加してこなかったのですが、今回、当事者の方から直接お話を拝聴することで、インターネット等には中々ないリアルな情報を得ることができとてもよかったです。

これから具体的にキャリアチェンジを考えていくにあたり、次はミーティングにも思い切って参加してみたいと思います。

5人のスピーカーの皆様、企画・運営してくださった方がいい東京事務局の皆様、誠にありがとうございました。

スピーカーより▶▶▶

「まず一歩、踏み出してみよう」ということ ショウコ

(30代/女性)

今回は初めてスピーカーとして参加させていただきましたが、私のキャリアチェンジが成功であったかどうかはわかりません。今は働く環境にも恵まれ健康的に楽しく働いていますが、辛くてもなんでも一般職として代理店での仕事に没頭し続けていたら、新しい景色が見えていた可能性だって大いにありますから。

ただ今回の転職で新しい働き方を知ることができたのは私にとって1つの財産です。そしてそれを皆さんに共有し、少しでもお役に立てたのであれば、私にしかできないことができたのだと嬉しく思います。これからも病気を障害ではなく「個性」と捉えて向き合っていこうと思います。

また、ご一緒させていただいたスピーカーの皆さんにも感謝！悩みや不安は尽きなくても「とにかく一歩踏み出してみる」というのが大事だということを再認識させていただきました。お互いに慰め合うだけではなく、刺激し高め合える関係が大事ですね。ありがとうございました。

「感染を機に看護師になって、本当に良かった」ともぞお

(告知歴7年、内服歴7年、初参加、30代男性)

僕はHIVであることを殆どカミングアウトしておらず、スピーカーとしてのお誘いを頂いたとき、それが公になってしまうことに不安がありました。しかし考えてみると、僕はHIV感染を機にもう一度人生をやり直そうと看護師になる決意をしました。紆余曲折ありましたが、今はその選択をして本当に良かったと思っています。なにより自分で自分を誇らしく思える生き方をしています。そんな僕のこれまでの歩みを伝えることで、立ち止まっている誰かの一歩に繋がるのであればと思い、引き受けさせていただきました。

会場はまるで記者会見場のような雰囲気、じゃんけんに負け最初にスピーチすることになった僕はあまりの緊張で頭が真っ白になり、声を震わせながら無我夢中に話していたことを覚えています。たくさんの質問も頂き、うまく回答出来たか不安ですが、僕なりに一生懸命お伝えさせていただきました。

他のスピーカーのお話も非常に参考になりました。皆さん病気を負と捉えず前向きにキャリアチェンジされておられ、HIVだからと人生を諦める理由には決してならないと改めて思えました。これからはしっかりと目標を持ち、看護師として誰からも認められる生き方を目指していきます。

第7期

アサーティブ・コミュニケーション

コミュニケーションの基本を学び、人間関係をスムーズにするためのワークショップ。沢部ひとみさん(パフスクールで「再出発のための自分史」主宰/NPO法人アサーティブジャパン認定講師)を講師に、1月30日、31日に第7期が行われました。

参加者より▶▶▶

「自分にも誠実になる」 リーマン(40代/初参加)

この感想文を読み始めて頂いたあなた。アサーティブって興味はあるけど…ともし参加に迷っているなら、私は「是非に！」とオススメします。私もずっと迷っていたひとりでしたから。日程は2日間。講師の方と今回の参加メンバー8名、年代も20～40代とバラバラですが、皆さん気さくで感じのいい方ばかりで緊張はすぐに和らぎました。内容はロープレ(ロールプレイング)中心。実はこのロープレが肝で、この実践で2日目に「新たな本当の自分」を知ることができたのです。

参加のきっかけは、リーマンの私が仕事で、ストレートに自己主張できるいっぽう、プライベートでは相手のことを考え過ぎて、全く自分の気持ちをうまく伝えられない悩みがあったからです。その悩みは早くも1日目のロープレ課題でいきなり冷や汗な結果へと…。

しかし、その後の講義で「相手だけでなく自分に誠実であること、自分にも12の権利があること」を学び、これまでのモヤモヤ感が初めてスッキリ晴れたのを今でも覚えています。2日目のロープレは各自の抱える課題で実践。ロープレ1回ごとにメンバーからのアドバイスや励ましでアサーティブを実施。合計3回繰り返していくうちに、徐々に誰より自分自身が「変わった！」と実感。講師の方からも

「表情までガラッと変わって自信が出ていて良くなった！」と笑顔でコメントをいただいた時は本当に嬉しかったです。

追伸。ロープレでの課題を参加翌週にリアルな相手にさっそく実践。結果は、自分の気持ちをきっちり伝えることで、意外にあっさり次のステップに進むことができ、更に自信がつかえました。2日間、お世話になった方々、本当にありがとうございました。

「自分の人間関係の問題点が次々浮き彫りに」 リョウ

(服薬歴：約3年／初参加／20代)

アサーティブ・コミュニケーションってなんだろう？プログラム一覧を見て、調べてみて、コミュニケーション障害の自分には必要な講座ではないかなと思い、参加しました。

学んでいて気付いたこと。僕は、自分の要求をはっきり言わず、相手に言わせ責任逃れしているズルイ奴だということ。他にも、自分の人間関係の問題点が次々浮き彫りに…自分の気持ちに誠実に、相手の状況と事実を見て、自分主体で話をし、責任をとる。自他尊重の人間関係を作っていきたいと思いました。

ためになり、受講された皆さんとも仲良くなれて、参加して本当に良かったです。講師の方、またスタッフの方々、

ありがとうございました。

「たんなるテクニックではなく…」 ノブ(30代/ゲイ)

母子家庭の長男で「しっかりしなくては」と背伸びをして、わがママを言わない良い子であろうとしてきたこと。友人の中でも「ゲイバレないよう、嫌われないよう」自己開示できず仮面を被ってきたこと。HIV感染後は自己肯定感が下がり、自己主張がさらにできなくなっていたこと。初日の講義で教わった「自己犠牲的でふみにじられても黙っているオロロタイプ」は、正に“八方美人”で“自分の無い”自分のことでした。

『アサーティブはテクニックではなく、生き方、在り方であり、権利です』という先生の言葉が強く印象に残り、2日間のプログラム全体で「自分の気持ちも大事にしてい」「自分にもたくさんの権利がある」と許されたような感覚を味わいました。

2日目のロープレでは、全員の前で「自分の仕事に掛り切りで、全体の仕事に目が行き届かない年上の同僚に仕事の分担を依頼する」役を演じさせてもらいました。先生や参加者のアドバイスで、ブラッシュアップされていく自分の言葉に驚き、変化を体感しました。先生の話は具体例が多くて非常に分かりやすく、参加者の雰囲気も良く、充実した温かい2日間でした。参加できて良かったです。

「HIV陽性者参加支援スカラシップ」報告会 ～当事者の視点からみたエイズ学会～

今回で10回目となる「HIV陽性者参加支援スカラシップ」の報告会が、2月21日に新宿区で開催されました。30名を越える来場者で満席となる盛会でした。

2006年、第20回日本エイズ学会学術集会・総会(学会長：池上千寿子)が東京で開催されたときにこのスカラシッププログラムが始まりました。「HIV陽性の当事者にも開かれた学会にしたい」という思いから、はばたき福祉事業団、日本HIV陽性者ネットワーク JaNP+、ぷれいす東京が話し合いを重ね、多くの協力者・企業等から支援を得て立ち上げられたものです。

10回目となった今回は、2015年11月30日～12月1日に東京で開催された第29回日本エイズ学会学術集会・総会(学会長：岡慎一)に、全国から38名がスカラシップを利用して参加しました。1回目～10回目までを通算すると、のべ435名ものHIV陽性者が参加を実現してきたとのこと。各地のHIV陽性者にとって経済的・地理的・心理的にハードルの高いと思われるエイズ学会への参加を、このプログラムが支え促してきた成果と言えます。なお、2015年度には、一般社団法人HIV陽性者支援協会が設立され、事業は新法人にて継続されています。

今回の報告会では、スカラシップを利用して学会に参加したHIV陽性者のうち3名がスピーカーとしてそれぞれの経験を語りました。

「“学会”というイメージに躊躇しつつも周囲の勧めにより参加してみたが、身近な話題もけっこうあり理解できるものが多かった」という初参加者。

「学会参加をきっかけに、支援されている立場から一歩

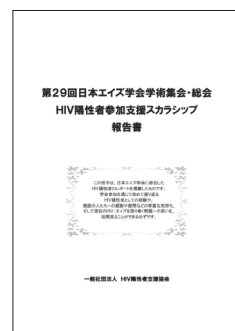
踏み出し、地域の行政窓口の対応に改善を求めた」という地方在住者。

「HIVと薬物というテーマが、支援的な視点で取り上げられていることに、良い意味で驚きを感じた」という薬物依存の回復者で自助グループのスタッフをする男性。

それぞれのスピーカーが各自の立ち位置で学会参加の意義を見出している様子が、リアルに感じ取れるものでした。地域や立場を越えた交流の可能性、新たな知見に触れることで広がる展望、当事者の視点が専門家や地域社会に還元されていくことの重要性が、ありありと示されていたように思います。

ひとりひとりのこうした経験が、毎年積みあげられてきた10年。その価値は非常に大きいと言えます。今後のスカラシップ継続のためには、さらなる支援が望まれる状況にあるとのこと、最後に書き添えたいと思います。

(矢島 高)



スカラシップ参加者の38名のレポートを収録した報告書。HIV陽性者支援協会のウェブサイトにてPDF版も公開中。
<http://hiv-ppaa.jp/>



部門報告 (2016年1～3月)



ホットライン

HIV/エイズ電話相談(ふれいす東京および東京都委託)

ホットライン部門・活動状況()内は出席人数

- スタッフミーティング 1/17(10名) 2月(研修のため中止) 3/6(懇親会25名)
- 世話人会 1/17(6名) 2月(研修のため中止) 3/6(懇親会)
- 東京都電話相談連絡会 1/15(3名) 2/12(3名) 3/11(2名)
- 新人研修補講[第1日] 1/24(5名)
- 新人研修補講[第2日] 2/21(5名)
- 新人研修修了ミーティング 1/22(2名) 2/7(2名) 2/19(2名) 3/19(2名) 3/27(2名)

相談実績報告

ふれいす東京 HIV/エイズ電話相談

	1月	2月	3月
日数(日)	4	4	4
総時間(時間)	16	16	16
相談員数(延べ)	5.5	4.5	4.5
相談件数(件)	37	34	48
うち(男性)	35	33	44
(女性)	2	1	4
陽性者相談	0	0	1
要確認相談	1	0	0
1日平均(件)	9.3	8.5	12.0

東京都夜間・休日 HIV/エイズ電話相談(委託)

	1月	2月	3月
日数(日)	12	12	12
総時間(時間)	36	36	36
相談員数(延べ)	28.5	25.5	26.5
相談件数(件)	142	145	139
うち(男性)	123	115	126
(女性)	19	30	13
陽性者相談	0	2	1
要確認相談	1	1	0
1日平均(件)	11.8	12.1	11.6

今回の新人研修の修了者は、8名だった。シフトの運営が少し楽になる。新人が入ってくると活気が出てくる。これからが楽しみだ。

(報告：佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング [1-3月実績]

- 1/2…中止 1/21…4名 2/4…中止
2/18…4名 3/5…3名 3/17…8名
※個別ミーティング5件

利用者数

12カ所の医療機関に通院/入院中の15名の方に20名のバディスタッフを派遣

活動内容(2016年3月末現在)

- 派遣継続中15件
- 在宅訪問15件
- 病室訪問0件
- 派遣休止7件

1月～3月中の動き

- 新規派遣・相談1件
- 派遣休止2件
- 派遣調整15件

今後のミーティング日程

午前ミーティング:

偶数月第1木曜 11:00/奇数月第1土曜 11:00

5/7(土)、6/2(木)、7/2(土)

※木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング:

毎月第3木曜 19:00

5/19(木)、6/16(木)、7/21(木)

バディの現場から

新規で1名の方から家の掃除や片付けでの依頼があり、活動を行いました。2件が派遣休止になりましたが、入院による訪問の休止と、地方にしばらく転居するための休止、となっています。今年のふれいす東京のお花見にも1名のバディ利用者の参加があり、バディが送迎を行いました。

(報告：牧原)



SEXUAL HEALTH PROJECT

性の健康、HIVの啓発を行っていくためのプロジェクトが新たにスタートしました。

10月10日 ミーティング(10名)

11月1日 TOKYO AIDS WEEKS ボランティア説明会

11月28日～29日 TOKYO AIDS WEEKS

1月23日 「ふれいす東京ボランティア交流会」企画会議(5名)

2月10日 「ふれいす東京ボランティア交流会」実施・運営(参加者：30名、内運営スタッフ：8名)

(報告：生島)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況(2016年1-3月)

グループ・ミーティング

- 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第82期(参加者6名)
1/11 1/23 2/6 修了
- 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第83期(参加者7名)
2/26 3/11 3/18
- ミドル・ミーティング
1/9(20名) 2/13(22名) 3/12(16名)

- ・異性愛者のための交流ミーティング
1/23(12名、ピア・ファシリテーター2名)
2/19(5名、2名) 3/19(9名、2名)
- ・Women's Salon
1/16(8名)
- ・陰性パートナー・ミーティング
2/6(4名、ピア・ファシリテーター1名)
- ・もめんの会(母親を中心とした親の会)
2/3(1名)
- ・カップル交流会カジュアル
1/27(19名)

学習会／セミナー／ワークショップ

- ・アサーティブ・コミュニケーション 自己表現のABC 第7期
1/30(8名) 1/31(7名)

交流会

- ・就職活動サポートミーティング
1/20(4名) 2/20(6名) 3/16(2名)
- ・介護職として働く陽性者の交流会
2/15(11名)
- ・看護師として働く陽性者の交流会
1/16(9名) 3/19(6名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
第82期振り返り 2/8(5名、6名)

ピア・ファシリテーターによるプログラム等 (厚生労働省委託事業)

- ・U40(アンダー・フォーティ)ミーティング
～10代から30代の男性HIV陽性者のミーティング～
1/25(参加者17名、ピア・ファシリテーター2名)
2/22(15名、2名) 3/30(12名、1名)
- ・障害者枠で働く陽性者の交流会 1/17(11名)
- ・教師として働く陽性者の交流会 2/13(4名)
- ・ピア+トーク 第7回「HIV陽性者とキャリアチェンジ」
3/16 ゲスト・スピーカー5名 参加者28名
詳細はP.2～P.3
- ・セクレタリー(26回 26名)
- ・ピア・ファシリテーター(14回 20名)

ネスト・ニュースレター

1/6:1月号発行 2/5:2月号発行 3/5:3月号発行
(報告:佐藤、加藤、はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.org/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

1月 6件(1日平均1.50件)
2月 8件(1日平均2.00件)
3月 11件(1日平均2.75件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

1月 0件 2月 0件 3月 0件

エイズウィークからレインボーウィーク

今年もGフレメンバーは5月のレインボーウィークに開催される東京レインボープライドパレード&フェスタにてブーススタッフとして参加。Gフレ相談とイベントでの活動は基本とし、さらにプラスアルファの活動ができるように今年度も頑張っていければと考えています。(sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2016年1月～3月

2016年	1月	2月	3月
電話による相談	82	90	111
対面による相談	52	52	53
E-mailによる相談等	96	89	115
うち新規相談	16	13	24

※メール新規は含まず

1～3月新規相談者の属性(N=53)

陽性者: 33人(男性:33 女性:0)
パートナー: 2人(男性:1 女性:1)
家族: 6人(男性:2 女性:4)
専門家: 2人(男性:2 女性:0)
判定保留: 1人(男性:1 女性:0)
その他: 9人(男性:5 女性:4)

1～3月新規相談者の情報源(N=53 複数回答)

Web(PC/携帯サイト含): 28件
医療関係(Dr.、Ns.、MSW、クリニック他): 11件
人的ネットワーク(家族、本人、パートナー他): 4件
電話相談: 4件
保健所/検査所: 3件
冊子/パンフ: 1件
他の陽性者: 1件
カウンセラー: 1件
ゲイ雑誌: 1件
TOKYO AIDS WEEKS: 1件
不明: 2件

1月～3月新規相談の内容(複数回答)

【ぶれいす東京のサービス利用、積極的参加等】

〔北海道/東北、関東〕

利用登録×8(新人PGM×4、ピア+トーク×2、カップル交流会×1、ミドル×1)

【検査や告知に関する相談】〔近畿〕

- ・(確認検査待ち)病院の即日で陽性、ニューハーフヘルスに行った、挿入行為はない

【告知直後の漠然とした不安】〔関東、近畿、中国/四国〕

- ・性的接触があった人への通知
- ・友人への通知
- ・地方での医療機関の選択
- ・これからどうなるのかしりたい
- ・CD4の値が低く身体状況が不安

【対人関係に関する相談】〔関東、九州/沖縄〕

- ・家族との関係性、ストレス×3
- ・人間関係の狭さやつらさ×2
- ・通知したパートナーへの資料やWebなどの情報提供

【生活に関する相談】〔関東〕

- ・転職/就職後の制度利用とプライバシー不安×3
- ・生命保険の加入×2
- ・海外留学について
- ・外国人も入れる生命保険
- ・外国人の制度利用
- ・外国人のビザの継続

- 債務整理や今後の収入
- 寮を出ると住む所がない
- 外国人、帰国にあたっての母国の情報
- 海外の渡航制限
- 血液のついた衣服の洗濯

【就労に関する相談】〔関東〕

- 海外勤務、赴任の継続 × 2
- 仕事の継続
- 障害枠での就労
- 再就職ができない

【医療体制や受診に関する相談】〔関東〕

- 海外での治療の情報 × 3
- 通知して通院できる歯科の情報

【心理や精神に関する問題】〔関東〕

- 薬物依存 × 2
- HIVとその他の障害の受容
- セックス依存について
- 過去のトラウマ

【周囲の人からの相談】〔関東、近畿、中国/四国〕

- ＜パートナー/配偶者/元パートナー＞
 - (パートナー)通知直後の混乱、今後の生活やSEX

＜家族(親、兄弟)/親戚＞

- (父親)息子の陽性が判明、生命保険の加入について
- (父親)通知直後、世間に知られると肩身が狭い
- (母親)息子が陽性と判明、会社にばれないか心配
- (母親)息子から通知、息子の問題、今後の関わり方
- (家族)同居の家族が陽性、日常接触での感染不安
- (きょうだい)母親が協力的でなくもどかしい

＜専門家＞

- (弁護士)拘留中の方の面会希望

＜その他＞

- (友人)友人が発症して判明、今後の付き合いや治療
- (友人)友人陽性者の医療機関への不信感
- (sex相手)通知を受けての混乱
- (不明)ふれいす東京のサービスを知りたい
- (確認検査陰性)確認検査は陰性、結果の受け止め方
- (感染不安?)郵送キットの自己判定の結果について
- (感染不安?)9年前に陽性かも、再検査が必要か
- (感染不安?)梅毒が陽性、HIVも陽性かも
- (感染不安?)パートナーが陽性かも

(報告: 牧原、生島、福原)

研究・研修部門

研究事業

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域においてHIV陽性者と薬物使用者を支援する研究」(研究代表者: 樽井正義)

- 1月22日:平成27年度中間評価資料および平成28年度継続申請書を提出。
- 3月4日:平成27年度第3回班会議を開催(於ふれいす東京)。参加者9名。
- 生島分担研究の、MSMの薬物使用・不使用に関わる要因

を探る「LOVE & SEX調査」のパイロット調査として、バーやハッテン場、SNSなどを利用するMSM14名にインタビューを実施。平成28年度に予定している調査と連動して、ゲイ・バイセクシュアル男性を主なターゲットにしたWebサイト「Love Life and Sexual Health (LASH)」(<http://www.lash.online/>)を制作中。

- 平成27年度総括・分担研究報告書を制作中。

厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「効果的な献血推進および献血教育方針に関する研究」(研究代表者: 白阪琢磨)

- 研究分担者として生島が「ハイリスク層の献血に関する意識・行動調査」を実施。

※研究機関として、2月27日に、「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン(実施基準)」に基づくチェックリストを厚生労働省へ提出。

その他研究協力

- 「UNAIDSが掲げる臨床評価指標90-90-90達成のための男性同性愛者に対する新しいHIV検査システムの構築に関する研究」(主任研究者: 岡慎一)への研究協力として、毎週木曜日19～22時(および1月16日(土)19～23時、3月12日(土)17～20時)に、検査キット「HIVcheck」配布場所に相談員を派遣。

研修事業

受託研修協力

- 2月28日: 青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修(主催: シェア=国際保健協力市民の会)に運営協力。参加者6名。

その他講師派遣・研修など

- 1月9日: community center ZELにて講演。参加者7名。
- 1月14日: 静岡県にて講演。参加者43名。
- 1月14日: アルコール関連問題と福祉研究会にて講演。参加者20名。
- 1月19日: 世田谷区職員研修会にて講演。参加者51名。
- 1月23日: 武蔵野会感染症対策研修会にて講演。参加者26名。
- 2月5日: 法務省人権擁護委員学習会にて講演。参加者25名。
- 2月6日: 武蔵野会にて講演。参加者32名。
- 2月6日: 「平成27年度HIV/AIDS症例懇話会」にて講演。参加者50名。
- 2月11日: エイズ&ソサエティ研究会にて講演。参加者28名。
- 2月21日: 「HIV陽性者による第29回日本エイズ学会参加報告会」にて講演。参加者30名。
- 2月23日: 板橋区「エイズ・HIV感染症の最新知識について～支援者として知っておきたいこと～」にて講演。参加者24名。
- 2月26日: JICA九州課題別研修「HIV/エイズ予防および対策～MDG6達成にむけて～」にて講演。参加者10名。
- 3月13日: UNITED IN ANGER A History of ACT UP 上映会「怒りを力に-ACT UPの歴史」にて講演。参加者42名。
- 3月25日: aktaスタッフ研修にて講演。参加者8名。

(報告: 生島、牧原、大槻)

特定非営利活動法人 ぷれいす東京 2015年度 活動報告会

恒例となった活動報告会を今年も開催します。前半はリレー方式の部門報告。それぞれの部門から、多様なスタッフが、日々の活動の様子や、参加してみての感想などを語ります。

後半のトークコーナーは、今年が薬害エイズ裁判の和解20周年にあたることから、武田飛呂城さん(日本慢性疾患セルフマネジメント協会)をゲストに迎えて、血友病の治療にてHIVに感染したご自身の経験を中心にお話を伺います。みなさま、どうぞお楽しみに！

▶▶▶日時

2016年5月29日(日)
18:00-20:45(開場 17:45)

- どなたでも参加できます。
- ぷれいす東京のスタッフ、賛助会員、寄付者、利用登録者は無料。それ以外の方は、資料代として1,000円いただきます。当日、ぷれいす東京の2015年度年間活動報告書をお渡しします。

▶▶▶プログラム

[前半] 部門報告

ホットライン / Sexual Health Project /
Gay Friends for AIDS / パディ / ネスト /
HIV陽性者への相談サービス / 研究・研修

[後半] トークコーナー

「薬害エイズの当事者としての経験とこれからのこと」

ゲスト：武田飛呂城さん

(特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会事務局長)

司会：生島 嗣

※薬害エイズと私たち—1996年の薬害エイズ裁判の和解により得た恒久対策、医療体制の整備、安心して治療が受けられる医療費軽減を可能にした障害認定、薬剤の迅速承認などは、感染経路を越えてHIV陽性者のその後の生活を大きく変えました。

▶▶▶懇親会

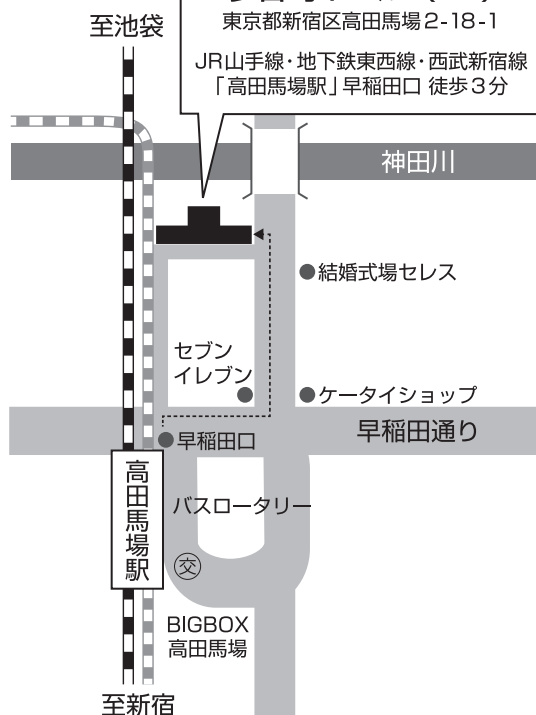
活動報告会終了後に会費制の懇親会を予定しています。お酒を飲む人も飲まない人も、ネットワークを広げませんか？ 活動報告会の前半までにお申し込みいただければ、参加できます。

▶▶▶会場

**新宿区戸塚地域センター
多目的ホール (7F)**

東京都新宿区高田馬場2-18-1

JR山手線・地下鉄東西線・西武新宿線
「高田馬場駅」早稲田口 徒歩3分



▶▶▶当日の問い合わせ先

ぷれいす東京 携帯電話
080-4293-8341(当日 17:00 ~)

ぷれいす東京 2015年度総会について

2016年5月29日(日) 16:00-17:00

※総会の参加は正会員に限ります。

※活動報告会とは別会場となりますので、ご注意ください。

認定NPO計画 目標を達成！

ご支援ありがとうございました！

多くのみなさまのご協力により、認定NPO法人の申請に必要な、「2014年4月から2016年3月までの2年間に、3,000円以上の寄付者(サポーター)200人以上」という目標を達成することができました。

これから認定NPO法人の申請に向けて準備を進めてまいります。今後も認定NPO法人であり続けるためには、サポーターが年間100人以上必要となります。引き続きご支援、よろしくお願いいたします。

編集後記

▶▶▶仕事は忙しすぎて暇すぎて困りもの。(まの) ▶▶▶5月7日に開催されたパレード関連のシンポジウムでは、台湾プライドの中心団体である台湾ホットラインのメンバー達と一緒した。翌日には、お互いの活動について報告し合うなど、今後の連携が強化された時となった。(いくしま) ▶▶▶突然ですが、現行のNewsletterはぷれいす東京の方針により今号にて休止となり、13年間努めてきた編集長もお役ご免となります。のべ数百名にのぼる執筆者やさまざまな形で支えてくれた方々、そしてどこかでこのNewsletterを読んでくれたみなさんに、あらためて感謝。ありがとうございました！(やじま)

編集・発行 特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

TEL. 03-3361-8964 (月~土 12~19時 ※祝祭日を除く)

FAX. 03-3361-8835

E-mail office@ptokyo.org

ぷれいす東京 <http://www.ptokyo.org/>

Gay Friends for AIDS <http://gf.ptokyo.org/>

Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)

Facebook <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>